



●四輪の例ではルブロイド注入後、約300kmを境にフィーリングが激変したとか。注意深く走行距離を延ばしていくと、350kmを超えたあたりからアクセル操作に対するエンジンの吹け上がりは鋭くなった。また、ギヤの入りがとても軽く、確実に変わったことも特筆しておこう



●ルブロイドはエンジンオイル総量に対して5~6%が適量なので、200ml弱を注入(GSF1200Sのエンジン容量は3500ml)。円柱状のボルトに目盛りはないが、光をかざすと内容が透けて見えるので目分量をつかみやすい。注入後は数分間の暖機運転をするか、そのまま走行すればいい



●15年3月に登場したスプレータイプのルブロイドLSP-50(50ml・1620円)。バッキンやシール材などゴム&樹脂部材をへ変質させないとのことなので、GSF1200Sのチェーンに使用してみると、直後から耳障りだった金属と金属がこすれあう雑音が目立って低減。回り方もスムーズになった。今後の変化も見守りたい

金属表面に化学フィルムを形成 エンジンを守り、走りも変わる

LUBROID LE-2000 / LE-2500

価格●7128円 (LE-2000)、4104円 (LE-2500)
内容量●240ml (LE-2000)、120ml (LE-2500)
アーステック ☎0551-38-1438 <http://lubroid.com>

「大幅な燃費向上」、「エンジン内のフリクション低減」……。目を引くキャッチコピーとともに販売されている多種多様なオイル添加剤たち。なかでも塩素系成分を含むものは摺動部分、つまり接触しあう金属どうしの表面を、ある意味「溶かして」平滑化するので即効性があり、潤滑性能を向上させることができる。

しかし、エンジンで使用すると燃焼時に有害な塩素ガスを発生しかねないため、環境面では問題が大きい。さらに金属本体はもちろん、ゴムパッキンやシール類への高い攻撃性についても古くから指摘されてきた。

塩素を使わず、塩素を超える性能を発揮する超極圧潤滑剤は、長らく実現不可能だと言われてきたが、11

年に純国産メーカーであるアーステックが実用化に成功。13年から発売されたのが「ルブロイド」だ。

今回は20年間で12万8585キロを走行してきたスズキGSF1200Sにルブロイドを注入。塩素フリーゆえエンジンの金属表面全体に化学フィルム(分子結合被膜)を形成するのに多少の時間がかかるとのことだが、確かに走行距離を重ねることによりメカノイズの音量が下がり、エンジン回転が滑らかになった印象。

なお、注入後に3回給油しての平均燃費は17.62km/ℓ。比較用に注入前3回の平均燃費を調べてみると17.12km/ℓ。走行条件がまったく同一ではないため、あくまで参考記録ながら明らかに向上していた。